

私たち交通指導員は、春・秋の全国交通安全運動をはじめ、夏の事故防止、年末年始の交通安全など、よく街頭に立ち、地域住民の皆さんと密着して交通安全運動に励みます。

しかし、安全運動期間中、テレビ・ラジオ・新聞等で報道されても、大部分の人々が無関心のようです。街頭に立つ私たちの前を「もの好きなことを」といふような、軽べつの目で見ながら通る人すらいます。

それでも私たち交通指導員は、そんなことを気にしているません。手足が凍るほど寒い冬の

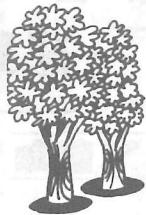
つれづれに思う

太田 計枝（町原）



私のひとこと

ひろば



朝でも、日がくらむように暑い

夏の炎天下でも、子供たちがけ

がをしないよう、自転車や自動

車が事故を起さないよう、注

意していかなければなりません。

法令上は何の権限も持たない民間のボランティアですが、私たちが注意することによって、あの悲惨な事故が防げるならば、

と思つて頑張つてゐるのです。

どうか皆さん、軽べつの目で私たちを見ないで、あたたかい「ご苦労さん」の一言をかけてください。私たち交通指導員は、そ

の一言で、なお一層事故防止活動に励むことができるのです。

道路はあらゆる交通機関が利用できるものであるのに、今社会では自動車が大部分を占めています。そして、人は常に車に脅かされています。

あるように、道路を利用するにも「きまり」があります。すべての人が、交通道徳に対する自覚を持つようにい

つも心がければ、交通事故は防げないのでしょうか。

一月、町原村宿下、権右衛門、團右衛門、喜兵衛、定右衛門、

伊東家一族の守護



邪鬼が印象的な庚申様

庚申様は、天蓋を戴き邪鬼を足下に踏まえ、その下に三猿が配されている青面金剛像が、主

木戸台宿下の庚申様（上）

横芝の碑

127

町文化財審議会委員 小沢春光さん寄稿

以前に「庚申様や道祖神の中には、名主や庄屋という、いわゆる村長（むらおさ）の屋敷内や門口等に祭られたものもあるらしい」とお伝えしたことがありました。それと思われ

実は、一度この庚申様についての取材を行おうとしたことがありました。私有地の杉林の中で小ぢんまりとして佇む姿や、刻まれている名前の連なり方等から、この庚申様は信者講中にあつたのです。私有地の杉林の中で小ぢんまりとして佇む姿や、

三十坪ほどの敷地を擁して建てられており、代々祐近にちなんだ名前の祐園を名乗つて今まで続いている。この宿下に移り住んだ初代祐園の墓は、この近くに

先に建つています。

谷台から寺方に向かう県道がありましたが、それと思われる庚申様が県道沿いの木戸台地に沿つて左右に大きくなり建つています。

谷台から寺方に向かう県道がありましたが、それと思われる庚申様が県道沿いの木戸台地に沿つて左右に大きくなり建つています。

俗に要害山と言われている城跡迂回すると、杉木立の森を構えた数軒の家が、物々しいといった感じで建ち並んでいます。

ここは宿下（しゆくのした）と呼ばれる木戸台地区で、この集落の森の中に何もない風情を見せて建つているのがその庚申様なのです。

庚申様は、天蓋を戴き邪鬼を足下に踏まえ、その下に三猿が配されている青面金剛像が、主

尊となつて正面に刻まれていま

す。他でもよく見かける図柄で

すが、やや小造りに見えること

と、図柄全体から見て、邪鬼の

面相だけが妙にはつきりしてい

るのが印象的です。両側面には、

「明和甲申元年（一七六四）十

月、町原村宿下、権右衛門、

下の伊東家は、全部本家と分家

の関係になつてゐる。本家は伊東祐園氏宅で、鎌倉時代に伊豆の伊東で栄えた伊東祐近の後裔であり、代々祐近にちなんだ名前の祐園を名乗つて今まで続いている。この宿下に移り住んだ初代祐園の墓は、この近くに

三十坪ほどの敷地を擁して建てられており、代々祐近にちなんだ名前の祐園を名乗つて今まで続いている。この宿下に移り住んだ初代祐園の墓は、この近くに

三十坪ほどの敷地を擁して建てられており、代々祐近にちんだ